佛教大学のフィールドワーク実習

～探せ！美山の新たな魅力！！～

佛教大学公共政策学科3回
岩井成美　黒田早希　齋藤大晃

①目次

①目次
②佛教大学の「フィールドワーク実習」とは
③美山町の概要
④美山町の構成
⑤美山町の課題
⑥私たちが考える「体験型学習旅行」の意義
⑦美山町フィールドワークの方法
⑧フィールドワークから見えてきた問題点
⑨フィールドワークから見えてきた可能性
⑩目指すべき「体験型学習旅行」とは！？
⑪「体験型学習旅行」の内容・効果
⑫ローカルな領域からの「学び」
⑬美山町の新たな展開－インバウンドの増加－
⑭グローバルな「学び」の必要性
⑮参考文献一覧
⑯謝辞

②佛教大学の「フィールドワーク実習」とは

- 佛教大学の「フィールドワーク実習」は、大学の外に飛び出して学ぶ、**アクティヴ・ラーニング型のプログラム**。
- この実習には、「地域」をフィールドとするコースと「環境」をフィールドとするコースの2つが用意されている。
- 私たちは、「地域」をフィールドとするコースを選択。
- 春学期を掛けて、十分に資料調査をした後、美山町でのフィールドワーク(一泊二日)を実施する
- 今回は、資料調査とフィールドワークを材料に、**美山町の体験型学習旅行の課題と可能性について考察**する。
- その上で、こうしたフィールドワークを通じて、私たちが学んだことを報告する。

③美山町の概要

«美山町の特徴»

■**かやぶきの里：**
国の**重要伝統的建造物群保存地区**として選定されている「茅葺の集落」が残っている

■**芦生研究林（芦生の森）**
大都市に近い低山地としては非常に珍しい森で、**京都大学の研究林**に指定されている(入林には許可が必要)

■**観光産業に積極的**
最盛時は、**年間72万人の観光客**を迎えている
(国土交通省都市・地域整備局 まち再生事例データベース HP【事例096】より)

■**体験型の学習旅行**
近年は体験型の学習旅行を積極的に誘致している。
→「**省庁連携子ども体験型環境学習推進事業」の事例として紹介された**こともある。

④美山町の構成

- 美山町は５地区から構成される
→知井・平屋・鶴ヶ岡・大野・宮島
→それぞれに独立した伝統を持つ
- 美山町のＩターンの状況
→1992年移住窓口となる第三セクター会社美山ふるさと株式会社が誕生
→21年間で316人が美山町に移住
そのうちの6割が移住の時点で60歳以上
（福井新聞2013年6月29日）

⑤美山町の課題

＜美山町の課題＞

■ **深刻な少子高齢化**
→高齢化率50%を超えている地区もある

＊「高齢化よりも実働人口の減少が問題である」との意見もある。

■どちらにせよ、各方面に限界が近付く

・観光産業の発展
・伝統文化の継承
・自然の維持管理
― 高齢化は全てを困難に

⑥私たちが考える「体験型学習旅行」の意義

A
B
C

A：美山町の課題

- 高齢化の進行(実働人口の減少)
- 自然や伝統文化の保護
- 観光産業(特に学習旅行等)の維持発展

B：政府の進める「体験型環境学習」

- 「子どもたちの豊かな人間性をはぐくむため，関係省庁と連携して，地域の身近な環境をテーマに，子どもたちが自ら企画し，継続的な体験学習を行う事業の実施を通して，体験型環境学習を推進する」（文部科学省HPより）

C：体験型の学習旅行の意義

- 「美山町の自然や伝統文化の保全」と「地元主体の観光産業」がリンクする
- 「美山町の自然や伝統文化」の意義を発信することができる
- 将来の「定住者」の獲得の可能性を高められる

⑦美山町フィールドワークの方法

○地域資源の調査方法

・調査方法は、**「フィールド・ワーク」**を選択。

・フィールド・ワークとは、ある対象について調べる際、そのテーマに即した場所を実際に訪れ、複数の手法を交えて分析を進める調査手法である。

・主に使用されるのは、①対象の直接観察、②聞き取り調査、③現地の資料収集、④アンケート調査など

→今回の調査では、①②③を主に用いる。

→実査では、10人が3つの班に分かれて調査。

・本発表は、資料調査やフィールドワークで集めた情報をもとに、発表者が「体験型学習旅行」について考察します。

班	日程 2013年6月15日(土)	日程 2013年6月16日(日)
A	美山支所地域総務課	美山まちづくり委員会
	美山ふるさと株式会社	Iターン実践者：Bさん
	Iターン実践者：Aさん	Iターン実践者：Cさん
B	ふらっと美山	有限会社かやぶきの里
	美山町観光協会	美山牛乳工房
		宮島振興会
C	山村留学センター	山村留学センター
		里親Aさん
		里親Bさん
		知井振興会

⑧フィールドワークから見えてきた問題点

住民の語り

- 観光産業の頭打ち問題
  →1日を掛けて、美山町で観光するコースがない
- **住民側のリーダーがいない／意見を伝える場が少ない**
- **若い人材や中核になる人材が不足している**
- **若い人の働き口がない**

学生の観察

- 住民の意思疎通が十分でない
- **地区意識・村意識が高く、地域間交流に課題が残る**
- **新住民と旧住民の交流を促進する必要がある**
- 美山町が目指している到達点が統一されていない
- 個別のプログラムを持続的に展開できない

⑨フィールドワークから見えてきた可能性

住民の語り

- 豊かな自然がある
- 長い歴史がある
- **人と人とのつながりが濃い**
- 文献や資料が多く残る土地である
- **地区・集落の特色が豊か**

学生の観察

- 四季が感じられる自然がある
- 多くの伝統文化が残っている
- **行動的な住民が多い**
- **真面目で学習意欲が高い住民が多い**
- **美山町の将来について考えている住民が多い**

⑩目指すべき「体験型学習旅行」とは！？

■住民同士が、新しい取り組みを通じて、より協働を深める「旅行」を目指す。

■それをテーマに掲げると…

「真のオール美山で、新たな出会いと発見を！」

○５つの地区の、交流を促進する「契機」に！
○新旧住民の、交流を促進する「場」に！

→真のオール美山にするには、全ての地域、全ての住民に、関わってもらう必要がある。
→「学習型体験旅行」の企画・運営を、地域住民が共働するイベントとして活用してもらう。

今、必要なのは、
一般向けの「ツアー」の前段階。

「１からの出発ではなく、０からの土台づくりを！」

⑪「体験型学習旅行」の内容・効果

＜「体験型学習旅行」の内容＞

ツアー対象者

- **住民のみ対象としたツアー**
- **一般客も参加するツアー**

＜「体験型学習旅行」の効果＞

住民だけを対象にしたツアー

- かやぶきの里以外にも魅力があると知ってもらう
- 他の地区の良さにも気付き、地域の人同士の交流の場となる。
- 自分の地区を紹介し地区の良さを再認識
- 美山の人間同士で「腹を割った」コミュニケーションができる。

一般客も参加するツアー

- 美山町全体をより詳しく知ることができる
- 自分の地域・他の地域の両方の良さを知る
- ある程度の経済効果が期待できる。
- 外部(観光客)から評価されることで、客観的な視点が得られる。

⑫ローカルな領域からの「学び」

○地域社会は1つじゃない

・地域社会には、様々なレイヤー(層)がある。

・地域社会を、固定的なイメージで捉えるのは間違い

⇒「地域社会のダイバーシティー(多様性)」についての学びがあった！

○地域社会の可能性

・地域社会には、多様であるが故に、様々な意見や価値観がある。

・しかし、そうした違いを、連帯のキッカケにできれば、地域活性化のチャンスが生まれる

⇒「地域社会のケイパビリティ(活用可能性)」についての学びがあった！

⑬美山町の新たな展開－インバウンドの増加－

概要

- **「インバウンド」とは「外国人観光の意味」**
- **国が重要な施策として「観光」を推している**
- **美山町では今年(2013)に入って急増！！**

【全国のインバウンド】

○観光客数

2010年： 861万人

2011年： 621万2千人（東日本大震災の影響）

2012年： 836万人

○国別客数(上位のみ)

韓国:204万4千人 台湾:146万7千人 中国:143万人

【美山町のインバウンド】

期間：2013年1月26日から2月17日

観光客数：1079名

内インバウンド：464名（全体の43%）

・ほとんどが「台湾の方」

⑭グローバルな「学び」の必要性

○インバウンドの急増がもたらすもの

・インバウンドの増加は、美山町にとってチャンスである

・しかし、その準備や構造、あるいは波及効果の分析は十分でない。

★**インバウンドの対応問題**／インバウンドを受け入れるための学習

⇒どのようなことが求められているのか？

★**インバウンドの構造問題**／インバウンドが「なぜ増えたのか」に関する分析

⇒インバウンドの増加は、「一時的なものか」あるいは「定常的なものか」？

○新たに、グローバルな視座に立った「学び」が必要とされている！

⑮参考文献一覧

- 尾家健生・金井萬，2008，『これでわかる着地型観光　地域が主役のツーリズム』学芸出版社
- 大社充，2008，『体験交流型ツーリズムの手法　地域資源を活かす着地型観光』学芸出版社
- 堂下恵，2012，『里山観光の資源人類学　京都府美山町の地域復興』，新曜社
- 森重昌之・高木晴光・宮本英樹，2009，『地域からのエコツーリズム　観光・交流による持続可能な地域づくり』，学芸出版社
- 観光庁HP「http://www/mlit.go.jp/kankocho/」（2013年9月22日現在）
- 環境省HP「http://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/about/index.html」（2013年9月22日現在）
- 京都新聞HP「http://s.kyoto-np.jp/education/article/20130628000027」（2013年9月22日現在）
- 文部科学省HP「http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/jizoku/kankyou/05041502.htm」（2013年9月22日現在）
- 南丹市HP「http://www.city.nantan.kyoto.jp/www/shisei/106/001/003/index.html」（2013年9月22日現在）

⑯謝辞

ご静聴ありがとうございました。

インターンシップにご協力いただいた美山町の皆様にも感謝申し上げます。